

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』（通信教育部ホームページ）にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 7～9
- ・演習・実習科目関連締め切り等 社福→p. 23～26 精保→p. 27～28

2026年4月以降の変更・留意点

●受講許可証について

2027年度から「スクーリング受講許可証」はポータルサイトのみで通知します。準備期間として2026年度夏期Ⅱスクーリングより「スクーリング受講許可証」は郵送とポータルサイトのお知らせ画面（カテゴリ別お知らせ）の両方で通知します。

【重要・再掲】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』p. 18他で既報の通り、『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2025年3月）をもって冊子版（印刷物）での配付を終了いたしました。各電子版（PDF）を通信教育部ホームページにて閲覧してください。

【重要・再掲】2025年度以降の各種申し込みについて

『With』冊子版の廃止に伴い、科目修了試験、会場スクーリング、各種演習・実習指導科目のお申し込みはWeb上での受付となります。

科目修了試験・会場スクーリングはポータルサイトでのお申込みとなります。

各種演習・実習指導科目につきましては、個別のご案内となります。具体的な方法については『With』各号やポータルサイト等でお知らせいたしますので、ご確認の程お願いいたします。

【再掲】幼保特例講座の延長に伴う対応について

令和6年6月に本特例制度にあたり2030年度までの延長が通知されました。これに伴い、本学における「幼保特例講座」を延長して開講させていただきます。

なお、2030年度に達する前に本学における幼保特例講座を終了する可能性もございますので、受講中の皆さまにおかれましては、お早目の単位修得を行うようお願いいたします。

立場が変われば見え方も変わる

教員 MESSAGE

通信教育部・副部長 佐藤 俊人

ご入学、進学おめでとうございます。みなさんそれぞれの目標に向かっての努力がはじまりますが、事務的なことや学習面でのわからないことも出てくると思います。そんな時は遠慮なくご質問ください。

さて、通信教育部では社会福祉学と心理学を中心に学習することになりますが、どちらも最終的には人々のWell-being……つまり、その人がその人らしく快適に生きていける、個人や社会が「よい」状態……をめざしています。ん？ところで、「よい」状態ってどんなものでしょうか？

私は発達心理学が専門で、最近の子育て支援を中心に活動しています。子育てでいろいろ悩む親御さんたちの話を伺うことが多いわけですが、親御さんたちはみんなお子さんのために「よかれ」と思っているいろいろな方法で育児をしていることが感じられます。もちろん、そこには親御さん自身の過去の経験や考え方、あふれる情報などを参考に「こうしたほうがよさそうだ」という考えのもとに育児をしている場合が多いわけですが、時にはそれが空回りしてしまうこともあります。

例えば、勉強に苦痛を感じて今は成績が伸びていない子に対して「将来のためによかれと思って」塾や習いごとに通わせたいと思うことは当然です。しかし、まだ将来のことをちゃんと考えられず、外で元気に遊ぶことに幸せを感じている子どもにとっては、塾や習いごとは苦痛な時間でしかないかもしれません。親御さんの「よい」とお子さんの「よい」がうまく噛み合っていないこととなります。子育てでは、幼稚園選び、習い事や中学受験をどうするか、スマホをいつから持たせようか、などの大きな選択から、歯磨きを一日に何回やらせようか、風呂キャンセルを許してあげるか、みたいな小さな選択まで、もしかすると噛み合っていないかもしれな

いことがたくさんあります。

これはほんの一例です。高齢者の生活の状況をよいものにするために高齢者施設を利用することは当然選択肢に入りますが、それによって高齢者の生活はずいぶん自由が制約されることになり、病気を治すための入院でも、それが本当に患者の希望どおりかどうか……などなど、日常生活中にはいくらでも「ん？」と感じる瞬間があるはず。人間は一人ひとり個性や今の状況がある上に、これまでの経験によってみんな感じ方が違うわけですから、自分にとって「よい」と感じるものが、他の人にとっては「そんなによくない」ことがあるのは当然のことですね……。

さて、社会福祉学でも心理学でも、相談を受ける場合に大切な態度として「無条件の受容」ということがよく言われます。これは、相手の価値観を否定せずにそのまま受け入れながら寄り添い、「そのひとにとってよい考え方や行動」を一緒に考えることを目指しているということです。10円玉を失くしてしまって嘆き悲しんでいる人がいたら、私たちの多くは「10円くらい、たいしたことないんじゃない??」と言いたくなると思いますが、それは目の前にいる、「10円をなくして、実際にひどく嘆き悲しんでいる人」の気持ちを否定してしまうことになります。まるで「ミカンが好き」と感じているひとに「リンゴのほうが絶対にいいよ!」というように、その人の心を見殺しして無意味なオススメをしていることとあまり変わりませんね……。たぶん、二人の会話はそこで終わってしまうか議論になってしまい、なんとなくギクシャクしてしまうことになりそうです。立場や考え方が違う人同士がお互いに受容せずに会話をすると、こんな感じになってしまうことがよくあります。

さて、多職種連携の重要性が言われる現代ですが、それぞれの学問分野ではそれなりの根拠を持ちながら「よい」状態について研究を通して模索しており、その成果としてさまざまな「よい」提案がなされています。しかし、その提案が必ずしも他職種の支援者や、支援の対象となる一人ひと

りの「よい」につながるかどうかはわかりません。だからこそ、多くの理論や意見に触れて、「その立場から考えるとそう考察できるんだ！」という驚きや学びが重要なのだらうと思います。

みなさんの講義を担当する教員は、もちろんその教員が専門とする学問的視点から情報をお伝えすることが多くなります。そして、同じ社会や個人の課題についてであっても、担当教員が変われば違った解説になることもあるはずです。立場が変われば見え方も違うわけですから、そんな時は「言っていることが違う！」ではなく、それらの考え方を最後にはみなさん自身で統合し、みんなにとっての「よい」と個人にとっての「よい」を両立できるような最適解を探し続けてみてください。